

**「震災記念公園に関する座談会」で出てきた意見
(他専門部会への連携)**

資料6-2-補足

○特に防災教育専門部会に連携する意見

◆防災教育の“目的”に関する意見

座談会での意見	校区
【住民の安心のための防災教育】 まちづくり協議会の提案書を見て住民が帰ってきている地区もある。「怖くない」と思ってもらうようにすることも大事。	福田校区

◆防災教育の“方法・やり方”に関する意見

座談会での意見	校区
【仮設住宅を学習の場として活用】 仮設住宅を1棟残しておいて、勉強する場所にしても良い。また、仮設住宅での宿泊体験も考えられるのではないかと。(今はまだ仮設住宅が残っているので嫌な印象もあるが、将来は懐かしくなるかもしれない。)	津森校区
【支援物資を学習に活用】 まだ残っている支援物資があるのであれば、それを使用する(活用する)という考えがあっても良いのではないかと。	津森校区
【有識者による勉強会の実施】 学者が研究して分かったことをわかりやすく説明する、というような勉強会があれば参加したい。	津森校区
【映像を活用した教育の場の提供】 映像と現物を組み合わせた教育が必要。年に1回(例えば運動会)のときにテントで映せる、などでも良い。	津森校区
【熊本県全体での学習の動線】 熊本城→益城町→阿蘇/空港というコースに向けたシステムを整備すべき。また、その受け皿も必要。	飯野校区
【フットパスの実施】 季節ごとに特徴的なフットパスを実施するというのも良いのではないかと。	飯野校区
【地域自ら資源を掘り起こす】 こういう時だからこそ、各地域で資源を掘り起こして、それをリーフレットにすることから始めると良いと思う。掘り下げれば、地区の人にも知らなかったことが出てくると思うので、それを地区の中で後々まで語り継いでいく。	飯野校区
【まちづくり協議会との関係】 まちづくり協議会で提案を作成しているが、「記憶の継承」に関連する話が漏れてしまっている部分もある。	福田校区

◆防災教育の“内容・コンテンツ”に関する意見

座談会での意見	校区
【仮設住宅での生活】 仮設住宅を1棟残しておいて、勉強する場所にしても良い。また、仮設住宅での宿泊体験も考えられるのではないかと。	津森校区
【地形・断層について】 曾祖父の代から、断層があるということは口伝で伝えられていたが「ふーん」と思っていた。今回、地震があって、初めて断層について理解したし、家の近くの段差がどういふ風にしてできたのか、ということにも関心が高かった。もっと勉強したい。	津森校区
【いのちの教育】 辻ヶ峰公園では「いのちの教育」をずっと継続して実施している。「いのちの教育」は、地元の人からすれば当たり前のこととなっている。	津森校区

座談会での意見	校区
<p>【自助・共助について】 避難所に、「町や県が何かをしてくれるのを待つのではなく、自分が皆のために何をできるか考えよう（津森校区区長会）」という言葉が書いてあった。それを見て、自分も頑張ろう、と思っていた。 また、地元の中学生や高校生が、ボランティアの方と一緒に、一所懸命働いていた。</p>	津森校区
<p>【支援への感謝】 避難所では、ボランティアの方が多く頑張ってくれていた。本当にありがたかった。</p>	津森校区
<p>【避難所の選定】 特に高齢者にとっては、エミナスが避難所になったのが良かった。</p>	津森校区
<p>【消防団の活動について】 津森では消防団が頑張った。津森の人は、消防団には本当に感謝している。これを津森のメモリアルにしても良い。津森で消防団が如何に動いたか、を時系列でまとめてもいいのではないか。（消防団の映画を作ろう、という話をしていたこともある。）</p>	津森校区
<p>【消防団の活動（普段からの活動）について】 津森では消防団を若いうちに外れるが、消防団を抜けたら集まる機会が少なくなってしまう。（消防団の間はよく酒を飲む。腹を割って飲んで、理屈ではなく、皆が人として付き合いという付き合いがある。） 消防団OBで、「お助け隊」というのを作ってもいい。消防団OBの知恵や力が生きる。</p>	津森校区
<p>【地域コミュニティの重要性について】 皆、生まれたときから知っており、横のつながりも強い。「部落内で何かあれば必ず助ける」という暗黙のルールがある。</p>	津森校区
<p>【食糧備蓄に対する考え方】 食糧の備蓄は都会の話。田舎は食糧は十分にあるので大丈夫。農家が多いので、色々と持って集まってきた。その食材も使って、福岡から来たボランティアの料理人の方が、料理を作ってくれた。</p>	津森校区
<p>【仮設住宅での生活】 飯野小学校は学校内に仮設住宅がある。これは、小学生にとっては忘れられない記憶。</p>	飯野校区
<p>【自助・共助について】 自助・共助で頑張ったことを、今、あらためて学んでいる。</p>	飯野校区
<p>【長期的なタイムスパンでの学習】 昔はこういう家があった…というところから、5年、10年、20年…という経過を共に見ていってもらおうというのも良い。</p>	福田校区
<p>【被害の状況（地形との関係）】 以前から水利が良かったであろう…というところでの被害が大きかった。また、堤近くでも被害が大きかった。</p>	福田校区
<p>【被害の状況（建築との関係）】 瓦が重くて倒壊した家もあったと思う。</p>	福田校区
<p>【被害状況】 前震では大丈夫だったが、本震で倒壊した家が多かった。そのため、本震で被害にあわれた方が多かった。</p>	福田校区

○特に震災遺構の保存・活用専門部会に連携する意見

◆震災遺構の保存・活用方法に関する意見

座談会での意見	校区
【現物保存と記録保存】 震災遺構については、何箇所かを現物で残して、残りは映像で保存しても良いのではないか。（現物保存にお金がかかるものは映像で残す、という考え方。）	津森校区
【断層×フットパス】 地区内を通る道路に沿って断層が通っている。これは過去の地震で地表に現れた断層。将来のフットパス実施に向けて、そこを強調するような準備（看板や絵などの準備）があれば良いと思う。	飯野校区
【震災遺構周辺の活用】 震災遺構だけではあまり広がりが無い。周辺も活用していく必要がある。	福田校区
【震災遺構の見せ方（技術の活用）】 ボタンを押せばスライドや写真が見れる場所があると良い。そういう場所があれば、子供たちも見れると思う。	福田校区
【まち歩きの活用】 まちづくり協議会では「まちあるき」のコースを考えている。神社等の史跡もたどりながら歩いていくコースを考えている。	福田校区

◆保存・活用すべき震災遺構に関する意見

座談会での意見	校区
【堂園の断層】 堂園の断層は大事な資産。ただ、横ずれ断層のため、横から見ても分からない。例えば、辻が峰から見えるようにしても良いかもしれない。	津森校区
【北向の断層】 北向の田んぼの中には、何千年前の断層と同じところがずれた、ということが分かる断層があった。	津森校区
【砥川地区の断層】 砥川地区は、断層が過去に何十回も起きている場所。それが分かるような地形（窪地や段差等）も沢山ある。	飯野校区
【岩戸川沿線の断層】 岩戸川の川原には断層が露出している。今回の地震に直接関係はないものの、地学の教育には適した場所と思う。	飯野校区
【赤井～津森の断層】 赤井のそめん滝から津森にかけては、断層に沿った学びがあると思う。	飯野校区
【谷川の断層（天然記念物）】 谷川の断層は学術的にも価値があるので活用していければ…と思う。谷川地内には、他にも断層が見られるところがある。	福田校区
【平田中公民館の断層】 平田中公民館の中の消防小屋に断層が横切っており、まちづくり協議会の中では、屋内の断層として保存してはどうか、という話もあがっている。（公園とセットでの整備も可能ではないか、という意見もある。） なお、消防小屋は少し傾いているが、復興基金も活用できるのではないか、と思う。	福田校区
【平田中公民館～柳水の断層】 平田中公民館から柳水に向かうところに断層が見えている。また、15万年前の阿蘇が噴火したときの様子が分かる場所もある。谷が深いのが溶岩が硬いので崩れたりもしないとのこと。	福田校区
【損壊した猿田彦石碑】 猿田彦の大きな石があるところが多い。どういったところが壊れているか…という見方もできると思う。	福田校区